

2013年12月30日

## 〈2014年の研究活動指針〉

当研究所は2014年を通し、以下のような視点・問題意識を以って活動する。

### I【世界と中国の近未来——『接軌』の可能性を探る】

“世界は中国を変えるのか、中国は世界を変えるのか、”

①1990年代末に中国では「ノーと言える中国」といった論調が強まったが、当時、鄧小平の開放政策を世界との「接軌」、つまり毛沢東時代の閉鎖された中国が世界の「軌」に「接」することで中国が歴史的に秘めている成長への可能性が促され、中国は本来の姿を取り戻すことができるといった考えが見られた。

②爾来、15年ほどが過ぎ、いまや習近平＝李克強体制となった中国は、「偉大な中華民族の復興」「海洋強国の実現」「中国の夢」を掲げ、対外的に膨張路線ともいえる強い姿勢を打ち出している。2013年末、東シナ海上空に突如として設定した「防空識別圏」もまた、そういった対外姿勢の一環と看做していいのであろうか。

### II【今後の中国行方】

中国が自らを世界の中の中国として位置付けるのか。はたまた中国基準を貫いて世界と対応しようとするのか。

以 上